



QUESTION

## QUESTION's REPORT

京都市中心部、河原町御池通交差点に誕生した京都信用金庫の新拠点「QUESTION(クエスチョン)」。本誌編集長の円城新子がパーソナリティを務める館内限定『QUESTIONラジオ×ハンケイ500m』の今回は、タイ料理店を運営しながらアジアの子どもたちに教育の機会を提供する株式会社菊岡夫婦社(きくおかめおとしや)の菊岡美紀さんをゲストにお招きし、その思いを伺いました。



vol.14

MIKI KIKUOKA

### タイ料理の先にある 子どもたちの笑顔

**気** 軽にタイ料理を楽しめる「バクチャー」。オープンして14年、現地屋台の雰囲気気を再現した店づくりが評判を呼び、現在5店舗を展開中だ。

運営するのは、株式会社菊岡夫婦社の菊岡信義さんと美紀さん夫妻。もともとこの飲食事業はあくまでも手段で、目的は「アジアの子どもたちへの教育サポート」。起業6年で、南ラオスの村に小学校を建設し、今も幅広く支援を続けている。

きっかけは26年前の「世界一周旅行」と美紀さんは話す。「頭をガンと殴られるような体験でした」。夫婦でタイを訪れた際、街中に親の仕事を手伝い、小学校すら通えない幼い子がたくさんいる状況を知る。自分たちは大学へも行き、こうして世界中を旅している。この差はどこから? 生まれた環境が違うだけで将来が決まる現実を目にし、夫婦で「自分たちにできることをしたい!」と決意した。その後、美紀さんがタイ留学でタイ語を習得したこともあり、夫婦でバクチャーを創業。アジアの教

育サポートの支援金稼ぎがスタートした。

現地を行き来する中で「学校があれば教育の機会になる」と聞き、・・・年にバクチャーで稼いだお金で最初の小学校を設立。しかし、子どもを通学させる余裕がない家庭が多いことを知り、教育普及のためにはまず「稼ぎ口」が必要だと判断。現在は「牛銀行」と名付けたシステムを紹介している。まず牝牛1頭を菊岡さん夫妻が村ごとに寄付、地元で繁殖させ仔牛が生まれると市場へ。牛はお金になりやすく、村に経済的余裕が生まれると子どもたちも学校へ行ける。今後は学びながら働けるよう、村に学生寮を兼ねたレストラン建設も計画中だ。

読み書きができ、自立して働ける。そんな当たり前の権利を多くの子どもに。美紀さんは今年、またタイに短期留学する。「100人の知人を作りたい」。人と人とがつながれば、できることも無限大。「すべてはバクチャーファンになって下さった皆さまのおかげです」。おいしい湯気の向うには、子どもたちの学ぶ瞳と、はじける笑顔が広がっている。



菊岡美紀さん(写真左)

1991年京都産業大学卒業後、酒造会社就職。1997年世界一周旅行、2005年タイへ語学留学。2009年タイ料理店「バクチャー」開業。2015年ラオスに小学校建設。現在飲食店を5店舗経営、サイトでは「タイ料理冷凍通販」をスタート、ガバオガイやパッタイなど6種類の本格タイ料理を絶賛発売中。

円城新子(写真右):本誌編集長

## 様々な人の『?』が集まる場所 -QUESTION-

ここQUESTIONは様々な分野の人が集まり、人と人、事業と事業をつなげていく共創空間です。2階はミーティングや商談など、複数人数での利用が可能で、3階は静かな空間で集中して仕事ができるコワーキングスペースとなっています。創業間もない起業家やフリーランスの方など、ぜひご利用ください。コミュニティマネージャーが常駐しているので、1人では解決できないQUESTION「問い」や「課題」を相談してみませんか?

「コミュニティメンバー」  
会員募集中!

QUESTION  
ホームページ



Facebook

